



Via Latina 22

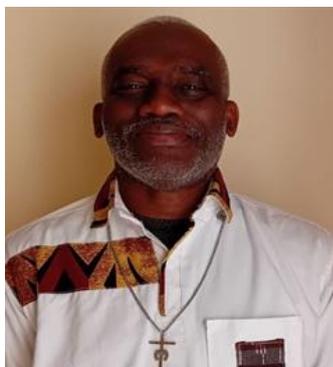
2026年2月 350号

総本部よりのお知らせ—マリア会

内 容

若者司牧の事務局設置を検討.....	1
総長評議員会 カマルドリでの黙想会に専念する時間を確保する.....	2
レイモンド・ホルター神父に敬意を表す日.....	3
2025年の間にマリア会資料室（AGMAR）の図書目録に登録された本.....	4
福者シャミナード神父と賢明の徳.....	5
出版物.....	9
・ ファウステイーノ.....	9

若者司牧の事務局設置を検討



Hervé Dagbo 士



Erick Otiende 士

第36回総会の指示に従い、マリア会は若者司牧の事務局創設の可能性を検討しています。総会は総長評議員会に、それがマリア会の生活と宣教に有益だと判断するなら、司牧事務局の設置を検討するよう要請しました。

この設置の仕事を支援するため、2名のマリア会員がこの検討プロセスを進めるよう依頼されました；ローマのマリアニスト国際神学校の副校長、エルヴェ・ダグボ士（IV）、そして総本部共同体のメンバー、エリック・オティエンデ士(EA)の2名です。他の行政単位の会員が、必要に応じて、近い将来、提案を提供したり、この検討を進めるために、意見を求められるかもしれません。

自分たちの経験と協力を通して、彼らは識見を集め、それぞれの行政単位の必要なものを確認します。そして若者とヤングアダルトの司牧活動に焦点を当てる事務局の創設のための次のステップを総長評議員会が識別するとき、これを支援します。

この検討は総会のビジョンに沿うものですが、総会は4つの鍵となるテーマを通して若者の司牧活動を深めるようマリア会に要請しており、そのためにそれぞれのテーマに1年を当てています。総長評議員会は私たちの共同体に助言と資料を提供してこの活動を支えます。

この努力の一環として、総長評議員会は総会以来3つのテーマ別の手紙を分かち合ってきました：2024年12月、2025年3月、そして2025年9月です。2026年3月に計画されている4番目の手紙で、最初のテーマ：“出会いの文化”は完了することになります。全体では、これらの努力は、マリアの福音宣教者として、若者に寄り添い私たちの使命を新たにすることに私たちの決意を表明するものです。

総長評議員会 カマルドリでの黙想会に専念する時間を確保する

総長評議員会は、年次黙想会のため2026年1月19日から24日にかけてカマルドリの修道院で1週間過ごしました。彼らは修道院のゲストルームに逗留し、毎日、祈りと食事をその修道士たちと分かち合いました。



マリア会の総長評議員会とカマルドリーゼ共同体

評議員会は日程調整が簡単にできるようにこの黙想を一緒に行うことにしました。1週間

一緒に黙想することにしたことは、2026年に予定されている5つの行政単位の訪問、そして夏の幾つかの国際的集まりを確定させたことによって、有効で実際的な選択だったと分かりました。この経験は行政単位の評議会にとってぎっしり詰まった予定表のさ中に、黙想会の時間を計画する時に有益な実例となります。

この修道院の共同体は温かく、兄弟的なもてなしを提供してくれました。総長評議員会はまたこの修道院の歴史について学び、薬局を訪れ、そして現代的な図書室を見る機会も持ちました。

ベネディクト会修道士のカマルドリ共同体は、聖ロムアルドによって11世紀初頭に創立されました。16世紀初頭に建てられたこの修道院はローマから車で約3時間半の場所にあります。

レイモンド・ホルター神父に敬意を表す日

2026年1月10日、土曜日、コートジボアール、アビジャンのマリアニスト修練院の敷地で第18回目のレイモンド・ホルター神父の巡礼が行われました。

この機会はレイモンド・ホルター神父（1925年12月6日－2025年12月6日）の生誕100年の祝いを記念していたので、特別なものでした。多くの巡礼者が彼に敬意を表し、そして彼の取り次ぎを通して神に恵みを願うために来ました。3000名余りの巡礼者の出席が記録されました。



ホルター神父の墓の周りの巡礼者たち

いつものように、そこには熱気がありました。強調点は、祈り、教え、証し、称賛などに置かれていました、、、その日の種々活動は平和、喜び、友情、および兄弟的な雰囲気の中で行われました。

一言で言えば、人は神に向けられた信者たちの大衆の熱狂を感じていて、レイモンド・ホ

ルター神父の取り次ぎを通して神から何かを期待していました。

主な講師のジャン・マルセル・コナン氏が次のテーマで神の民に話しました：“レイモンド・ホルター神父と共にイエスの学び舎で”。それはホルター神父の著書：“イエスの学び舎で”の内容の説明でした：



アビジャン教区の司教代理ノバート・エリック・アベカン師と
コートジボワール従属地区の地区長ノエル・ドミニク・クアオ師

ノバート・エリック・アベカン神父（アビジャン教区の司教代理）は、彼の立場から、《喜びをもって私たち皆一緒にレイモンド・ホルター神父の生誕 100 年を祝いましょう》というテーマで信者たちを強く鼓舞しました。また彼はミサを司式しました。

私たちは平和と喜びのうちに別れました。次の巡礼は 2027 年 1 月 9 日に行われます。

また私たちはこの 1 年とそれ以降にかけて生誕 100 年を祝う種々活動を発表していますが、それには、シンポジウム、誰でも参加可能な 1 日、そしてレイモンド・ホルター神父の霊的遺産についての黙想会が含まれています。

2025 年の間にマリア会資料室（AGMAR）の図書目録に登録された本

2025 年の間に、ローマのマリア会資料室（AGMAR）の図書室は、マリアニスト修道者によって書かれたか、あるいはマリアニストに関して書かれた 46 冊の本を受け取り目録に加えました。これらの本は 2025 年の間に発行されたか、あるいはそれ以前に発行されたが 2025 年に AGMAR で受け取られた本です。このように、受け取られた 46 冊のうち 16 冊が 2025 年に発行され、そして 30 冊はそれ以前に発行されていました。私たちは 3 つのリストを紹介します：最初のリストは、AGMAR に受け入れられた 46 冊に関するもの、第 2 は 2025 年に発行された本に関するもの、第 3 は 2025 年以前に発行された 30 冊に関するもの。

リストを見るには [ここをクリック](#)。

福者シャミナード神父と賢明の徳

『カトリック教会のカテキズム』は賢明の徳を次のように定義しています(1806条):「賢明とは、あらゆる状況のもとで私たちの真の善を実践的理性によって識別させ、これを実現するための正しい手段を選ばせる徳である;《賢い人は自らの歩みを見極める》(箴言14・15);《思慮深く振る舞い、身を慎んで、よく祈りなさい》(1ペトロ4・7)。聖トマスは《賢明とは行為の正しい基準である》というアリストテレスの言葉を引用しています(神学大全、2-2,q.47,a.2)。賢明は臆病や恐れとは違ふし、また二枚舌や偽善とは無関係のものである。賢明は《諸徳の御者》と呼ばれており、基準と尺度を示しながら、他の諸徳を導く。良心の判断そのものを導くのは賢明である。賢い人はこの判断に従って自分の行動を決定し、実行に移す。この徳のおかげで、私たちは倫理原則を個々の場合に誤りなく適用し、行うべき善や避けるべき悪が何であるかという疑問を解決することができる。」

もし、上記の文章に、「ラテン語で賢明(*prudentia*)は語源的に摂理(*providentia*)と関連している」と付け加えれば、私たちが知っている人々の中から、前進することを恐れず、急がずじっくり取り組み、距離を置いて慎重に検討し、祈りのうちに神に指導を求め、聖霊に照らされて時のしるしを読み取る一人の責任感のある男性がすぐに浮かび上がってきます:ギョーム・ジョゼフ・シャミナードがその人です。

かなり早い段階で、ミュシダンの聖シャルル小神学校で、多分それ以前に、若いシャミナードは諸徳の実践を学んでいました。嘗てイエズス会員であった彼の兄、ジャン・バプティストが彼に同伴し、識別を教えました。シャミナード神父は、ミュシダンでの資産管理者としての職業経験によって、現実的に物事を考えるようになりました、すなわち、学校の持続可能性にとって本質的であるよいマネジメントができるようになったのです。物理学と数学の知識を深めるために彼がこの期間にした旅行は、彼が自問していた根本的な疑問に対する答えを見出す助けとなり、また、彼の生徒にとっては、啓蒙思想の考え方に開かれた、完全にその時代の人となる助けとなりました。とはいえ、この思想はすべてが良いとはいえ、彼はこの思想の識別法を知っており、自分の生徒たちにその危険性を警告しています。

フランス革命とミュシダンの聖シャルル小神学校閉鎖に伴って、シャミナード神父はボルドーに移動しましたが、そこには彼を探索する人々に直面して賢明であるようにしてくれる諸徳を実践する機会が多くありました。この賢明はまた恐怖政治の間に彼が追跡者たちの網の目をくぐりぬける助けにもなりました。

ボルドーに来るとすぐ、彼は人々の信頼を得て、ラムルス嬢のような人々が彼の指導に身を委ねました。今日《霊的同伴》と呼ばれるこの体験を、シャミナード神父はミュシダンの若者たちの間で実践していました。彼は、人々と一定の距離を置くこの賢明の徳なしには、

常に自分を他者に投影するリスクがあること、少なくとも無意識的に他者を「自分のお気に入り」にするリスクがあることに気づいていました。そして、残念ながら、今日、私たちはこの霊的悪用のリスクを知っています。霊的同伴は彼の生活の大切な聖務でした。多くの人が彼に同伴してもらいました：将来のララン神父、アデル・ド・トランケレオン、司祭たちを含む著名なソダリティのメンバーたちです。彼らはシャミナード神父が助言と霊の識別の賜物に恵まれている人であることを認めていました。ララン神父が書いているように、「シャミナード神父は、自分の中に数年先を見越して知恵と成熟を備えていて、生まれたときから、他者を教え導くために生まれたように見える人々の一人でした。」あるいは、彼の甥の息子フィルミン・デララはそれを次のように述べています：「シャミナード神父は、生まれながらに、ハンサムな顔立ちに恵まれていました。彼の切れ長の眼は、生きいきとしており、健康で、相手の心を見通すようでした。彼の詳しく知ろうとする眼は、あなたの心の思いを見抜きました：すなわち、彼は自分の身近な人の人間性や性格、およびその誠実さの程度を見分けました。もし彼がフェンシングを習ったとすれば、聖ジョージを超えていたことでしょう。」

このような信頼、このような識別はまた、教会の権威筋にも認められました；こうして1795年に、彼は聖職者民事基本法に宣誓した司祭たちの和解を委ねられ、また、1800年のサラゴサの国外追放からの帰還にあたり、バザ教区の管理者の仕事を委ねられました。



マリア会請願総代理、エンリケ・トーレス師（右から2番目）、請願同代理たちと共に、それぞれの神の僕たち（ピウス9世、ヨハネ23世、トンマーゾ・レツジョ、シャミナード神父、ドム・マルミオン）の列福を教皇ヨハネ・パウロ2世に求める前

シャミナード神父は、それが「ソダリティ」であれ、あるいはボルドーの「ミゼリコルド」であれ、アジャンの「マリアの娘たち」であれ、あるいは「マリア会」であれ、自分が着手し、あるいは同伴したすべての事業において、この賢明の徳を実践し、聖霊によって導かれるようにしました：すなわち、彼は耳を傾け、識別し、一步引いて冷静に考え、助言し、あらゆることが明らかになるまで祈りました：明らかになった時だけ、彼は信仰に基づいて決

定し、前進する許可を与え、目標に到達するために障害物を迂回しました。それはもはや彼の計画ではなく、神の計画でした。彼の何人かの協力者は決定が遅いと彼を非難し、サン・レミでのダヴィッド・モニエや、レイラックでのラランのように、マリア会を危険にさらすような行動を主導しました。

助言を求める他者を助けるために、彼は自分の経験を利用しました。例えば、財務局長で、サン・レミの事業の責任者であるドミニック・クルーゼ士に次のような指示を与えています：「私はあなたが賢明であってほしいと心から望みます。というのは、賢明は、いわば、上長の第一の必要条件だからです。しかし、私はあなたが理性の光を用いるとともに、あなたの賢明が信仰の松明によって導かれることも望みます。《人間的な視点は臆病で不確かなものです》と聖霊は語っています。」（手紙 1824年8月6日）

私たちがリーダーシップの面で当てにするモデルは教会でした：「組織と統治に関しては、私はカトリック教会の組織と統治にできるだけ近づくことをいつも考えています。この狙いから遠ざかれば遠ざかるほど、マリア会の堅固さと安定は失われていくでしょう。」（手紙、1830年11月6日、クルーゼ士宛）

シャミナード神父は、創立した二つの修道会のメンバーが聖性へと成長し、サポートを受け、諸徳を実践するために、信頼できる会則を与えようと心掛けました。教皇フランシスコがあるカテケージスの中で述べたように：「神は私たちが単に聖人になることではなく、インテリジェントな聖人になることを望んでおられます。なぜなら、賢明なしには、聖人になることは道を誤るからです。」

彼の落ち着きと平静さは、シュボー神父に次のことを理解させるために書いた手紙に見ることができるよう、神の現存に関する鋭い超自然的な感覚から来ていました：確かに私たちは弱い者ですが、「私たちは、自然的のようには見えても、実際は超自然的領域にいるとは思いませんか、また、まさにそのことから、この超自然的領域で、私たちは皆、無力で、無能で、イエス・キリストが私たちの力、私たちの光であることを必要としているとは思いませんか。あなたは卑下し、自分の弱さを認めながら、高度の職務を果たすためにはどうしても自然的な才能が必要だと考えているようです。民間や行政の領域ではその通りです。しかし、私たちが神からの使命を受けている宗教的領域では、あなたのすべての論理は正当さを失い、私たちがお仕えしている偉大な主に誉れを帰すことにはならないでしょう。「神は強い者を恥じ入らせるために、世の弱い者を選びました。」（1 コリント 1・27）（手紙、1833年6月17日）

1819年に最初のマリア会学校の購入にあたってエステブネ氏と交渉した彼の行動や、1833年にオギュスト・ブルゴン・ペリエール氏がマリア会を去る時に彼と交わした経済的取り決めに示されているように、彼は、自分の良心や愛の掟と同じ程度に、信仰の基準によ

って導かれました。シャミナード神父はこの二人の弟子に、非常に寛大で忍耐強い自分の姿を示しています。

シャミナード神父時代のマリア会の財政状況は非常に困難なものでした。創立者は篤志家を探し、借金し、遅れずに返済し、また、ボルドーのある人たちがシャミナード神父は莫大な個人資産を持っていると思うほどの軽率な判断に起因する借金を引き受けました。ここに、シュポー神父が 1849 年の仲裁判断のテキストについて書いたものがあります：「シャミナード神父は融資の方法によっていくつかの銀行手形を次々と人手に渡したことが知られていますが、このことによって、彼は大資産家だという評判を立てられたのかもしれませんが。人手に渡ったこの同じ銀行手形は、人々が存在するのと同じほど異なる銀行手形に同化されることができません。また彼は、自分に信頼を置く何人かの人々から預かった様々な金額のお金を運営していた、いやむしろ、口座に預けていましたが、これらの金額はマリア会によって返還された、ということにも注目すべきです。これらすべてのことが、シャミナード神父は大きな資産を持っている、という推測になったのかもしれませんが。」自分のお金をシャミナード神父に委ねた人々に信頼感を与えたのは、彼の賢明だったのです。しかし彼はどのようにして、世俗に染まらずに、またそのような商取引のもつ恐怖もなく生きることができたのでしょうか。ここに、蓄積する負債について心配しているカイエ神父に宛てたシャミナード神父の返信があります：「私たちは私たちの諸施設を増し、既存のものを維持し、あるいは拡大するために、毎日負債を重ねていますが、あなたはこの負債に苦しんでいるようです。あなたが想像している不幸が起こらないように、私たちがみ摂理の意図によるものと信じる事業にあって、私のみ摂理の計らいに先んじることを祈ってください。絶えず祈るのです。今朝、私たちが歩んでいるこの驚くべき道のことを考えていました。そして、何か恐れを感じ、また少し途方に暮れました。しかし、神がご自分に対する私たちの信頼を強め、御自分の恵みだけを頼りとして私たちが生きようになるために、このようになさっておられることを考えると、いくらか励まされもし、心強くなったと言えます。私が驚かされ、時としては多少の不安に駆られるのは、聖パウロの次の言葉です。「神に仕える者は誰も、自分を召された方のお気に召そうとして、世事には関わらない。」(2テモテ 2・4) 私の立場、すなわち、神のために私が頑張らなければならないこの戦いにおいて、まさに私は世事に携わらなければならないのです。このように世事に手を出さなければならないということは、戦いが神のお考えに従っていないことを示すのでしょうか。これが私の問題です。わたしは随分前からこのことを自問しています。多少なりとも安心が得られるのは、それはただ、次のような条件でのみ世事に携わるよう注意するときに限られます。①神が要求なさっているとされる。②できるだけ最小限にとどめる。③絶えず自分の心を神に向け、精神と心は実際にこれらの世事に巻き込まれないようにする。もしあなたが何か付け加えること、あるいは何かもっと良いことで言いたいことがあるならば、遠慮なく話してください。」(手紙 1824 年 6 月 16 日)

私たちは、彼が人生の終わりに経験しなければならなかった辛苦を知っています。自分の

敵対者に対する彼の態度は、経済的な問題についての彼の様々な仲裁者たちによって認められた知恵と賢明であることを示していました。彼が擁護しているのは、自分の事業ではなく、神が彼に委ねられ、彼はそれに対して責任がある事業であり、その事業は漂流したり、本来の価値が損なわれたりしてはならないので、(ある人たちの目には頑固と見なされるかもしれないが)、最後まで彼をやり遂げさせたのもまた、賢明だったのです。

出版物

ファウスティーノ

尊者ファウスティーノの列聖調査に関して発行された公報は、リンクを通して3か国語で得られます。

ファウスティーノと共に、[2026年1月](#)

私たちは皆さんが読んでそれらを分かち合うようお勧めします。

最近の総本部通信

- 1月21日：総指導者会議 (GLA) (2027年7月4-20) 総長アンドレ・ジョセフ・フェティス師からゾーン会議議長と行政単位の責任者あてに3か国語にて送付
- 1月22日：マリア会3部門162号-マリアニスト連帯資金と2026年マリアニスト養成基金の配分、財務局長、ジェローム・バラキエマ士から3か国語で全マリア会員あて送付

総本部日程

- 2月1日~27日：総長評議員会がトーゴ地区を訪問